

起業家支援
設立・開業スタートセット

法人設立印



本柘植の実印・銀行印・認印・ゴム印
4点セットです。



¥28,000

デザイン スリー セット
DESIGN 3 set

◆ロゴマーク



◆名刺



◆封筒



通常 ¥202,420 → ¥150,000

ホームページ作成



内容や情報の質以外にも、ページのデザインや見易さがその会社・お店の価値に繋がります。ヒアリングを行い「強み」を引き出しそれを生かしたデザインをします。

¥249,800

※上記の価格に消費税は含まれておりません。

Quick 実印 サービス



本柘植

最速
1時間
仕上げ

中央区役所
一番近い
印鑑ショップ

本柘植・黒水牛・オランダ水牛
の3種類からお選びいただけます

【薩摩産本柘植】

男性実印 7,350円
女性実印 5,250円

【黒水牛 ~芯持ち~】

男性実印 10,500円
女性実印 7,350円

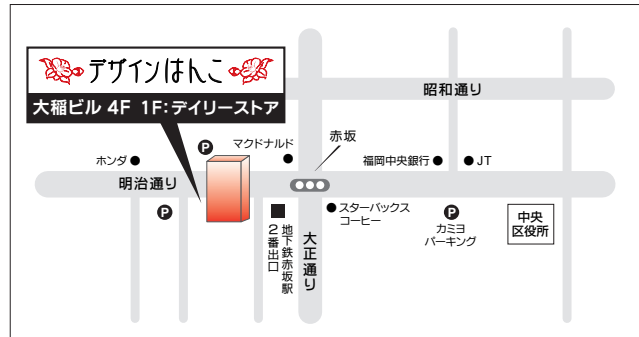
【オランダ水牛】

男性実印 12,600円
女性実印 9,450円

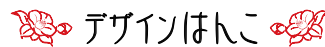
[篆書体にてお作り致します]



来店不要でご注文! ご注文は 電話・FAX・メールにて



起業をデザインする
IMPRESS



TEL:092-752-0888 FAX:092-752-0822

インプレス福岡 株式会社

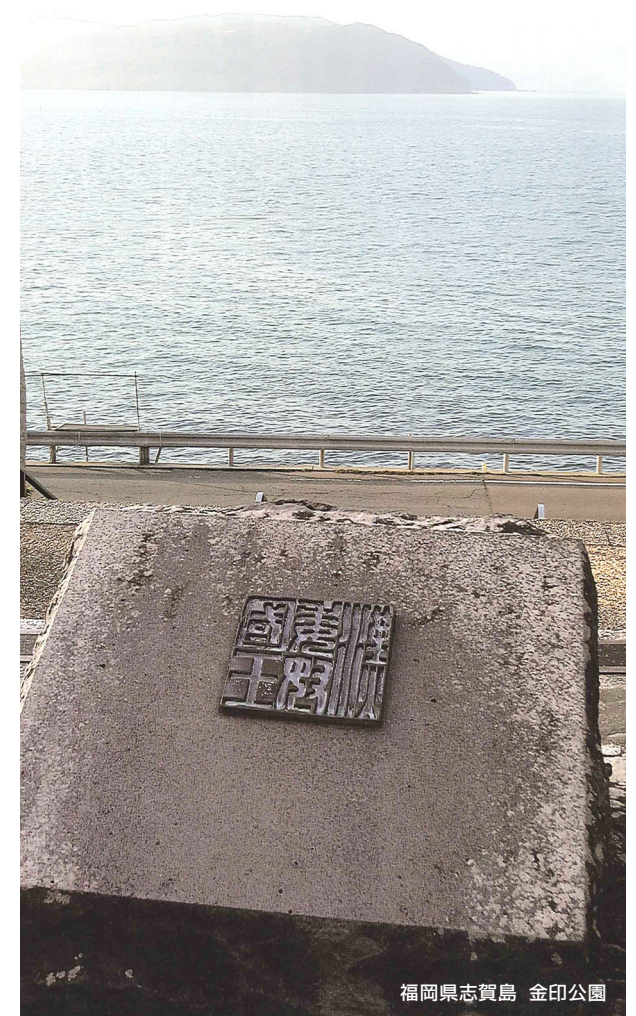
福岡市中央区赤坂1丁目11-13 大稲ビル4階 〒810-0042

☒ info@design-hanko.com ☎ http://design-hanko.com

月~金/9:00~18:00 土/10:00~18:00 定休日/日曜・祝日

起業をデザインする
IMPRESS

2013.3月号



福岡県志賀島 金印公園

起業・経営カフェ

印鑑・ロゴマーク・ホームページ・社章・名刺・封筒・チラシ
ゴム印・スタンプ・サイン・カッティングシート

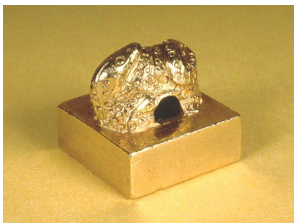
印鑑・デザイン物語 その1

ハンコの歴史は、紀元前3500年の古代メソポタミア時代に始まったとされています。世界で最も古くハンコが用いられたのは西アジアと言われ、指輪形の印章がエジプトで現れました。その当時はハンコと言っても文字の前段階である模様や絵が彫られていただけだったようです。



最初は粘土板や封泥の上に押すスタンプ型の印章が用いられましたが、後に粘土板の上で転がす円筒形の印章(円筒印章)が登場しました。その後、文字が発明されて書くことが主体となっていく中で西洋ではハンコと同じ役割を持つ手書きのサインにとって代わられていき、ハンコは西洋で姿を消す前にシルクロードを通して東洋に渡り生き延びました。

日本最古のハンコはいまでもなく福岡県志賀島で発見された「漢委奴国王」の金印であり、これは中国の皇帝から授けられたものであるとされています。このことをきっかけに、日本でのハンコの歴史が始まったといわれています。



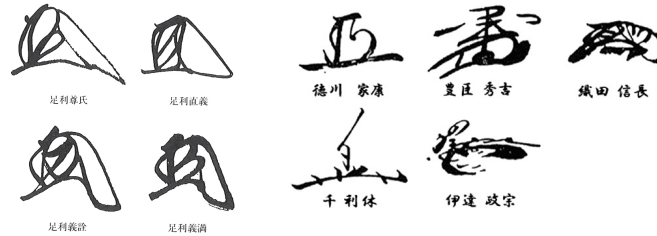
「漢委奴国王」の金印は3行に文字が陰刻され、蛇の形をしたつまみがついています。一辺は2.3センチの小さなハンコですが、重さは108.7グラムとずっしり重く、ほぼ22金にあたと推測されています。日本において紙に朱や黒をもって押捺するハンコの本格的な使用は、奈良時代に律令の制度が整い、実際に施行されるようになってからであると考えられています。

正倉院の所蔵する文書などから奈良時代には絵を職業とする人、河川運送業をしていた人など様々な人々が「印」を使っていたことが想定されており、更に当時の不動産売買契約にも捺印の事実が確認されています。

【参考文献】門田誠一「はんこと日本人」/山本桃仙「不思議なハンコ屋」/平木場泰義「印相学の知識」

印鑑・デザイン物語 その2

平安時代の後期になると花押(かおう)が登場します。現代の「はんこ」社会から想像するのは困難ですが、鎌倉・室町時代はサインの時代でした。そのサインというのは「花押(かおう)」と呼ばれ、各個人の一筆書きのような書き文字で所謂、現在のサインとよく似たもので、この時代は印章より花押の方が重要視されていました。



その後、戦国時代には花押(サイン)に取って代って印鑑の使用頻度が増してきました。印鑑が変わった理由は戦争に明け暮れていたため辞令交付に便利であったことが挙げられます。

また、この当時の印鑑は知識人や知恵者の武将が印鑑を所持していることから印鑑の持つ霊力と自己の勇猛を引き出す神宝と信じられていました。それぞれの武将が競って印鑑や印判を作り、戦場に持って行ったことから印鑑の霊力発見、印鑑の福德と吉凶は戦国時代から始まったと言えそうです。

天下統一を夢見る武将たちは、それぞれ独自の個性にみちた印章を用いるようになりました。鎧兜や旗印などと同じく、自ら用いる印鑑にも権威を強く押し出そうとしたのです。

例えば、武田家は「龍の印」、上杉家は「獅子の印」、北条家は「虎の印」などや織田信長の「天下布武」の印章も有名です。美濃稲葉山城を攻略した直後につくられたもので、天下統一への悲願が込められた印鑑です。



織田信長



豊臣秀吉



武田晴信

以上の様に大変興味深いのは、混沌とした戦国の世の中を生き抜いた武将たちは、自身の権力や存在感をより一層強くアピールする1つの手段として、現代に通じる「ロゴ・シンボルマーク」を既にこの時代から使っていました。

21世紀の先行き不透明な現代社会にも十分参考に出来て、深く考えると何がしかのビジネスチャンスが見つかりそうな感じがします。

起業・経営カフェ 3月日程

起業・経営カフェ

経営計画 vol. 34

～経営計画の考え方～

再生クラブ 代表 稲田正信氏

経営上の問題・悩みの1つに「資金繰り」があります。経営者が資金繰りを考え始めると、概ねそれに神経の約7割を使ってしまい、残りの3割で肝心な利益を生み出す経営を考えなければなりません。特にこの時代、10の力のうち半分以下の3割の力では勝負出来ない事は火を見るより明らかです。



売上が順調で資金の回りが良い時こそ次の手を打っておかなければいけません。ですが、日々の忙しさや市場の急な変化などで売上が下がりはじめた時になって、慌てて次の営業方法や売り先を探してもそう簡単に右から左へとは動くものではありません。

今月の「起業・経営カフェ」では、特に事業を3年以上継続中の経営者の方々に事業戦略と経営計画の考え方について、少人数ディスカッション形式で進めて参ります。

「再生」再び蘇らせるという意味です。

それは、企業として、経営者として持っているものを見直し、隠れている能力や技術を表面化させ、磨き上げ、新しい力にしていける作業です。自分ではなかなか気がつかない事が多いのですが、その部分を外からの目で確かめ、掘り出し、方向性を定めて組み立て直していきます。

対象者・参加して頂きたい方

- 事業を3年以上継続している経営者、士業の方
- 現在の事業について他者の意見・考え方をお聞きになりたい方
- 集客や販促について勉強したい方
- ご自身の経営を今一度整理整頓したい方
- 現在会社等を経営中で新たな展開をお考えの方

今回の起業・経営カフェで期待できる効果

- 中小企業の経営に関する基本的な考え方が再認識できる
- 自身の経営状態を客観視できて経営の建て直し方が見えてくる
- 経営上の悩みが解消され、気持ちが前向きに変わってくる
- 自分にあった経営の方法が分かる
- 同じ境遇の経営者と知り合えて活発な情報交換が始められる

日時: 3月26日(火) 10時～12時

定員: 先着4名 参加費: 3,000円